



高谷高一君を悼む

五十嵐 醇 三

学生時代は「議長」というあだ名を持っていた高谷君であった。あだ名の示す通り、若くして人の世話をよくし、又皆のまとめ役でもあった。大学卒業後ほんの僅かの間、下水道の仕事にたづまわっていたが、昭和8年大学の講師であり、内務省の都市計画主任であった榎木先生の御推輓によって、神奈川県都市計画地方委員会に招聘されることとなったのが、都市計画の人となった因縁である。以来、彼が三重県の土木部長に転出されるまでの全部の職歴を都市計画界に献げることとなり、大学のクラスの中で私と2人だけが、都市計画という謂わば土木屋の世界では馬鹿にされていた職域で苦勞を共にすることとなった。

今でこそ都市計画や社会開発の仕事は政治的にも最重点的な課題として重要視されておられるけれども、このような社会の認識を得るに就ては、勿論社会状況の背景もあるけれども、その裏には高谷君を初め、多くの斯界の諸先輩方の長い間の努力に俟つ所の大きい事を忘れてはならないと思う。

彼の初期の仕事は神奈川県や東京都にあって、わが国の人口増に対応し、将来の都市計画の重要性を社会に訴え、熱心に夫々の都市の将来像を画き、又実際に都市計画を推進する重要な役目を背負っていた。偶々昭和15年頃から太平洋戦争の戦域拡大に伴って、わが国の都市計画の仕事も大いに転換した。彼の職責も戦争に備えての防空態勢の整備、都市の疎開そして中支における戦災都市の整備へと、そして戦後は全国の戦災都市の復興と都市の交通態勢の整備へと、休む暇なく現実の都市問題と都市建設の仕事と取組むこととなった。

このような都市計画へのひたむきの努力を背景として、彼の行政政治的な手腕は益々発揮され、三重県土

木部長、同副知事の要職へと導かれることとなった。持前の敏知と実行力によって三重県の建設行政と一連の行政を今日の明朗なものにした功績は大きい。そして次には実に大きな、より高い舞台においての活躍によって、全国の都市市民に奉仕される日のある事が期待されていたのである。

彼と性格的にも非常に異なる所があり、彼の政治力、洞察力、体力或いは酒力などは私よりはるかに優っていた。従って私は同じ同級生でありながら常に目を置いていた。しかも相たすけ、励ましあいつつ、時には良い意味のライバルとして努力を続け、都市計画界のために貢献することが出来たのは、彼との友情のお蔭であると思っている。その頑健な彼が私などより早くしかも彼を待っていた重要な仕事と地位を、そして家族の愛と願いを無にして、死に急いで行ったことは返す返すも痛痕の極みである。

然し彼と共に都市計画に励んだ同僚は尙多く健在であり、彼の指導、訓育をうけた多くの後輩達や都市計画界の人々は、今は全国の都市計画の要職について活躍しておられる。都市計画界は今後尚色々問題をかかえながらも、この人達の力によって明るい未来を建設して行く事と思われる。どうぞ心安らかに眠って頂きたい。

高谷高一氏 略歴

明治38. 10. 15	福井県に生る
昭和 7年 3月	東京帝国大学工学部土木工学科卒業
4	東京市役所土木局下水課
8. 9	都市計画神奈川地方委員会
12. 5	都市計画東京地方委員会
15. 2	興亜院
18. 3	都市計画兵庫地方委員会
19. 10	防空総本部
20. 11	戦災復興院計画局土木課
25. 8	経済安定本部兼務
26. 5	建設省都市局都市建設課長
27. 4	復興課長事務代理
31. 5	三重県土木部長
32. 4	三重県副知事
40. 4	三重県観光開発株式会社副社長
41. 3. 27	死亡